

様式第3号(第12条関係)

会 議 録

会 議 の 名 称	令和6年度 第3回社会教育委員会議
開 催 日 時	令和7年1月30日(木) 午後 7時00分から 午後 8時30分まで
開 催 場 所	吉川市役所 3階304・305会議室
出席委員(者)氏名	土倉知子委員、峯健二委員、西澤利子委員、郭育子委員、 和田津智郎委員、強矢奈保子委員、石井亮英委員、 能登克巳委員、鈴木博委員、高田明充委員、富田泰行委員、 渡邊勝巳委員
欠席委員(者)氏名	福田稔之委員、米田清美委員
担当課職員職氏名	生涯学習課 課長：岩上勉 主幹：山崎功二 主査：川島和也 主事：笹原康友 中央公民館 館長：鈴木洋
会議次第と会議の公開又は非公開の別	《会議次第》 1 開会 2 あいさつ 3 議事 (1) 令和7年度社会教育(生涯学習)事業計画について (2) 効果的な情報発信の方法について 4 その他 5 閉会 《公開又は非公開の別》 公開
非公開の理由 (会議を非公開にした場合)	
傍聴者の数	0名
会議資料の名称	次第 令和6年度第3回社会教育委員会議資料 令和6年度埼玉県市町村社会教育委員連絡協議会加盟・非加盟 団体
会議録の作成方法	<input type="checkbox"/> 録音機器を使用した全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 録音機器を使用した要点記録 <input type="checkbox"/> 要点記録

会議録確認指定者	土倉知子委員、強矢奈保子委員
その他の必要事項	

審議内容(発言者、発言内容、審議経過、決定事項等)	
	<p><b>1 開会</b></p> <p><b>2 あいさつ</b> 高田委員長あいさつ</p> <p><b>3 議事</b></p> <p>(1) 令和7年度社会教育(生涯学習)事業計画について</p>
高田委員長 事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事務局より説明を求める。</li> <li>・資料に基づき説明。</li> </ul>
高田委員長 峯委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・質問、意見はあるか。</li> <li>・市民交流センターおあしす管理等事業について、生涯学習課がおあしすの管理担当ということか。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・おあしすは指定管理者である民間事業者が一定の裁量を持ち、市の判断が必要な事項等について、生涯学習課と協議をしながら運営に当たっている。</li> </ul>
峯委員 事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指定管理者が事業計画を立案しているということか。</li> <li>・お見込みのとおり。おあしすの管理運営に関しては、本審議会とは別の協議会を設けて事業計画を議論している。</li> </ul>
峯委員 事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・おあしすと中央公民館で同じような企画を計画していることが見受けられる。お互いに情報交換をしているか。</li> <li>・事業計画はそれぞれが独立して作成している。イベントが重なってしまい、参加者が分散してしまうことが懸念されるため、情報交換が必要と考えている。</li> </ul>
能登委員 事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生涯学習メニューブックの活用実績があれば伺いたい。</li> <li>・令和5年度の実績となるが、実施講座数が47講座で、参加者が1,448名である。実施講座の詳細は手元にはないが、防災や消費者教育に関する講座の活用が多い。</li> </ul>
能登委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公民館の事業計画で、「夏休み!親子ふれあい工作教室」、「味噌づくり教室」について、今年度は定員を大きく超える応募があったとの説明があったが、どのような情報発信を行ったか。</li> </ul>

事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・例年と同様、広報よしかわ、市ホームページ、館内へのポスター掲示とチラシで情報発信している。</li> <li>・工作教室は参加費が低額で、親子でできることや、商工会建設業部会のサポートもあることが人気の要因だと感じている。味噌づくり教室も参加費をいただくが、2kgほどの味噌ができ、実益を兼ねていることが人気の理由と捉えている。</li> </ul>
郭委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・それぞれの講座の定員は何名か。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・工作教室の定員は40組、味噌づくり教室の定員は20名である。</li> </ul>
高田委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・先ほど生涯学習メニューブックの話があったが、公民館で活動しているサークルにメニューブックを見て参加した方がいると聞いた。生涯学習メニューブックは上手く活用されているようである。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生涯学習メニューブックは、市に転入された方に配布する書類セットにQRコード入りのチラシを入れて周知を図っている。</li> </ul>
	<p>(2) 効果的な情報発信の方法について</p>
高田委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事務局より説明を求める。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資料に基づき説明。</li> </ul>
高田委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「1 はじめに」について意見・質問はあるか</li> </ul>
能登委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1つ1つの文章が長いので、もう少し短い文章でつなげた方がより読みやすくなるだろう。</li> </ul>
高田委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「2 社会教育・生涯学習を取り巻く状況について」に対し、意見・質問はあるか。</li> </ul>
峯委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「子ども・若者」、「高齢者」、「外国人」を取り上げているが、社会教育を考える上では、勤労者である現役世代についての状況説明もあった方が良いのではないか。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本提言はこれまでの議論を踏まえて取りまとめるものと考えている。ここまでの会議でも、大きいテーマを「情報発信」としながら、個別の社会課題として「子ども・若者」、「高齢者」、「外国人」の3点について議論を重ねてきており、「現役世代・勤労者」についてはこれまで特にフォーカスしていない。</li> </ul>
峯委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文章にしたときに、「子ども・若者」と「高齢者」の間が空いてしまうように感じる。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「4 まとめ」において、すぐに効果が出るものではなく、辛抱強く取り組みを続けていくことが必要とまとめている。いまの「現役世代・勤労者」を引き込む即効性のある取り組みが難しい中で、次世代を担う「子ども・若者」が経験し、その子ども達が勤労者となったときに地域コミ</li> </ul>

鈴木副委員長	<p>ユニティに還元されるような流れを作れると良いと考えている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 峯委員の意見もそのとおりであるが、その部分が最も難しい大きな課題であると思う。事業計画を見ても、「現役世代・勤労者」を対象とする事業が少ない。抜けているということはそれだけ難しい課題ということなのだと思う。その部分については、今後の会議において大きな課題として議論することで良いのではないか。</li> </ul>
峯委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 公民館の事業計画で、親子工作教室の応募が多いと説明があったが、子どもを仲介して、子どものために参加してみようという思いがある中間層がいる。そうした方々に目配りをしていくことも大事なので、今までの議論に出てきてはいないが、今回の提言の中に少しでも文言を入れられないか。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「子ども・若者」の状況説明の中で、「共働き世帯の増加」というように、現役世代に言及した文言を加えることで対応したい。</li> </ul>
峯委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 勤労者に特化しなくても、子どもと絡めた部分で文言が入ると幅が出るように思う。</li> </ul>
強矢委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「子ども・若者」の部分で「子ども達自身が地域の活動に参画する体験をし、それが楽しい経験として記憶されることで、地域に対する愛着や誇りが育まれ」という部分について、長い目で見て、子ども達が地域で育っていくことを期待するということはその通りだと思う。働くことに必死な「現役世代・勤労者」を引き込むというのは現実的に難しいと思うので、親子で体験することへの参加から始めるのは良いと思う。</li> </ul>
能登委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「2 社会教育・生涯学習を取り巻く状況について」の書き出しに、「人口減少と人口構造の変化」とある。ここは「1 はじめに」から繋がる部分であるが、前段では「人口減少」に触れられていない。吉川市は人口減少しているのか。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 吉川市の場合、区画整理事業により市全体としては今後も人口が増加する見込みである。一方で、旭地区や三輪野江地区は美南地区のように人口が増えておらず、地区ごとに状況は異なっている。</li> </ul>
峯委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 介護福祉推進協議会に参加しているが、介護計画における人口推移では令和15年頃まで微増であるが、それ以降は減少に転じる見込みであったと思う。吉川市の中でも、例えば旭地区や平沼地区のような昔からある町名のところは人口が減っている傾向にある。</li> </ul>
能登委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域によって状況が異なることは理解したが、市全体として人口が減少していないのであれば、「人口構造の変化」という文言で総括しても良いのではないか。</li> </ul>
鈴木副委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 人口減少の前に「地域によっては」という文言を加えることで整理でき</li> </ul>

<p>事務局 高田委員長 能登委員</p>	<p>るのではないか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・文言の追加や並べ方の変更など、修正について検討する。</li> <li>・「3 効果的な情報発信についての提言」について、意見・質問はあるか。</li> <li>・良くまとめられていると思う。1点目の「様々な手段での情報発信」や、2点目の「おもしろそう」「便利」と感じる情報発信」という部分は、先ほどの公民館の事業にも通じる。この1点目と2点目は努力していくと良いと思う。</li> </ul>
<p>高田委員長 能登委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「4 まとめ」について、意見・質問はあるか。</li> <li>・「まずは「参加してみよう」と思ってもらうことを念頭に置き、工夫を凝らした情報発信に取り組んでいく必要がある。なお、こうした工夫を行ったからといって、急に活動に参加する人が増えたり、つながりが生まれる訳ではないため、焦らず、じっくり、地道に取り組むことも大切である。」という部分について、「皆で努力していきましょう」ということで良い表現であると思う。</li> </ul>
<p>鈴木副委員長</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一生懸命やっている人にはじれったいとは思いますが、これが現実であり、良い言葉が並んだと感心している。これを打破できればとは思いますが、特効薬はないだろう。</li> </ul>
<p>高田委員長 事務局</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・意見が出尽くしたと思う。今後の進め方について事務局から何かあるか。</li> <li>・本日の修正意見を踏まえ、最後は委員長と調整して報告書をまとめたいと考えるが宜しいか。</li> </ul>
<p>高田委員長</p>	<p>(委員了承)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ご了承いただいたので、私と事務局で調整のうえ報告書としてまとめ、教育委員会へ提出したいと思う。</li> </ul>
<p>西澤委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ほかに何かご意見などはあるか。</li> <li>・私の息子は現在は吉川市を離れているが、八坂まつりに思い入れがあり、まつりの時期には吉川市に戻ってきて参加している。こうした参加者がいることも1つの情報発信になるだろう。</li> </ul>
<p>峯委員 西澤委員 事務局</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ほかの町の人も参加できるのか。</li> <li>・以前は参加できなかったが、現在は可能である。</li> <li>・各町会のお話を伺うと、地元の担ぎ手が減少している切実な状況があり、西澤委員のご発言のように、地域から離れた方にも声をかけ、情報発信に取り組んでいる。また、例えば下町では、子ども神輿体験といった場を設けて、それをきっかけに担ぎ手を呼び込むことに取り組んでいる。</li> </ul>
<p>鈴木副委員長</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・私もまつりは好きだが、自治会に関わっている経験から、まつりがある自治会は会費の負担が大きい。それはまつりが衰退している一つの原因であり、大きな課題だろう。</li> </ul>

事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>町会費の負担についてはその通りである。また、コロナ禍以前は地域の企業からの支援もあったが、コロナ禍でまつりを縮小したことで支援が途切れ、コロナ禍が空けてからもその状況が続いていると伺った。</li> </ul>
高田委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>そうした実態を市民の皆様にも伝えることも大事だろう。社会教育委員の役目として情報発信していければと思う。</li> </ul>
土倉委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>旭小学校の校長をしているが、市役所の周りのような「町」と旭地区では発展の度合いが大きく異なる。本校の児童数は115名で、来年には100名、その次は100名を切ってくる状況にある。市からイベントの情報をいただくが、会場が駅南地区だと行くことが難しい。子ども達もあつちは「町」だという意識がある。人口が減少している地域の生涯学習の機会についても課題として検討していただければと思う。旭地区の自治会も一生懸命やっており、学校も地域の方と連携した取り組みを考えて実施しているが、「町」とは異なる環境の中で、行政の力を貸していただき、学びの場を設けてもらえるとありがたい。令和12年の新入生が旭小で7人、三輪野江小が8人と見込まれている。面積でいえば市の半分以上を占める地域で、新入生が15人という状況。学校教育もそうだが、生涯学習の在り方についても是非検討していただきたい。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>行政、教育委員会としても状況は把握しており、どういう事業が展開できるかを課題の一つとして捉えている。</li> </ul>
能登委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>文藝よしかわの小中学生作文部門の作品を見ると、旭地区の児童は地域への愛着を持っていることが感じられる。そうした特性を活かしていけたら良いと思う。</li> </ul>
石井委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>美南地区は人口が増えているが、旭地区や三輪野江地区が羨ましいと感じる部分もある。美南地区は自治会加入率が20%台で、近くに住んでいてもつながりが弱い。旭地区、三輪野江地区は地域のつながりが強いと感じる。上手くバランスを取って何かできればと思う。</li> </ul>
土倉委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>流山市在住であるが、流山市も急速に発展した地域と、昔ながらの地域があり、吉川市と同じような状況である。流山市も上手くバランスを取ろうと頑張っているのが伝わる。少ないことで良い部分もあるが、そうした中でも学びの場が増えてくと良い。</li> </ul>
	<h4>4 その他</h4>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>埼玉県市町村社会教育委員連絡協議会の解散について説明</li> </ul>
峯委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>それぞれの地区に機関があるのか。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>お見込みのとおりである。</li> </ul>
峯委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和6年度に入間地区が退会したとのことだが、地区の組織を立ち上げ</li> </ul>

事務局	<p>るために退会したということか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・入間地区として組織が元々あり、地区単位の組織として県の組織を退会したということである。</li> </ul>
峯委員 事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・退会した理由は何か。</li> <li>・県の組織は形式的な会議が多く、情報交換の場としては有効に機能していない一方で、事務負担は加重であり、加盟しているメリットを感じられないということが要因である。例えばPTAでも同様の流れがあり、形式的な会議が多く、構成員として会議への参加自体が負担になっている中で、得られるものが少ないという状況がある。そうした中で、上部団体に加盟しているよりも、近い地区同士で連携を図る方が有益であるという考え方が強くなっている。こうした考え方は社会教育委員に限らず、大きな流れのように感じている。</li> </ul>
高田委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個人的な感想であるが、県が行政として積極的に関わる姿勢が見られないというのも要因の一つだろう。</li> </ul>
能登委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県の組織の解散については加盟率から考えても仕方がないと思うが、埼玉葛地区の組織は続けていくと良い。昨日も東部地区の研修会があり、実践発表や講演会は参考になるものであった。こうした機会を確保するためにも埼玉葛地区でのつながりは継続して欲しい。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2月に埼玉葛地区の会議がある。吉川市を代表して委員長と課長に理事として出席していただき、市の意見を伝えていただく。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・埼玉葛郡市社会教育振興会の総会・研修会について 5月ごろに開催されるので詳細が決まったら連絡させていただく。</li> <li>・社会教育委員の団体推薦について 令和7年度以降の委員について、各団体に推薦をお願いすることがあるので協力をお願いする。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報発信という難しいテーマに対して真摯に意見を出していただき、提言として形にすることができた。最後に委員長と調整し、教育長に提出させていただくほか、教育委員の皆様にも報告させていただく。2年間、活発な意見をいただき感謝申し上げます。</li> </ul>
<p><b>5 閉会</b> 鈴木副委員長挨拶</p>	

以上、会議の内容に相違ないことを証するため、ここに署名する。

令和7年2月26日

署名委員 土倉 知子（自署）

署名委員 強矢 奈保子（自署）